



新年ごあいさつ



高北維新

第69号
新春号



発行日
平成31年
1月10日

病院事業管理者兼院長

和田 幸久
わだ ゆきひさ



新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。本年が、皆様にとりまして、昨年以上に良い年であることをお祈り申し上げます。

時の経つのは早いものです。新病院がオープンし、平成25年5月に診療が開始してからもう6年目になりました。紙カルテから電子カルテに変わり、右往左往していた日々がなつかしく思い出されます。より使いやすくするために、またソフトの更新が必要なために、電子カルテを近く更新する予定です。更新に合わせて、外来での患者さん呼び込みについては、患者さんのプライバシーを考慮し、各科外来のスクリーン上に受付番号を診察順に表示することを考えています。病院にとっても、患者さんにとってもよりよいものにしていきたいです。

南海トラフ地震は今後30年以内に70〜80%の確率で発生すると指摘され

ています。国の検討会は昨年12月11日に中央防災会議で南海トラフ地震対策の報告書案を提示しました。報告書案では大地震につながる可能性がある異常現象について、ハ半割れ〜ハ一部割れ〜ハゆつくりすべりの3ケースに整理しています。その中でも最も危険視されるのが、ハ半割れ〜で、震源域の東西のいずれかで、マグニチュード8クラスの地震を計測するケースです。

ハ半割れ〜が起きた場合、残る反対側地域でも、新たな巨大地震が誘発される可能性がある」と指摘されており、そのため被害が出ていない地域でも津波が予想される沿岸部の住民は、1週間ほど避難すべきとしています。

佐川町は内陸部にあり、津波の心配はありませんが、一番怖いのは山津波（土石流）や土砂くずれです。

町立病院の使命として、地域の医療を守ることに真っ先に挙げられます。

地震などの災害に対する備えを可能な限り行い、発生時には、迅速に対応し被害にあわれた人を一人でも多く救命できるように取り組んでまいります。あたり前のことですが、引き続き市民の皆様の健康を守りながら、地域になくならない病院を目指してまいります。今後とも病院をよろしくお願いいたします。

看護局長

真辺 千穂
まなべ ちとし



明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、新たなお気持ちで、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。いつも、多方面にわたるご指導、ご協力、ご支援を賜りまして誠にありがとうございます。

昨年は、地域包括医療・ケアの充実のため、一般病床を50床（地域包括ケア病床10床含む）から56床（地域包括ケア病床16床含む）、医療療養病床を48床から42床とし、療養病床で医療度の高い方に対応するために、入院基本料2から1へと、各病棟の再編成を行いました。4月には、診療報酬と介護報酬の同時改定が行われ、地域包括ケアシステム構築のための取り組みに関連した、入院時から退院後までの支援の流れの「退院支援加算」が、「入退院支援加算」に見直されました。これを機に入院予定者が、入院生活や入院後にどのような治療過程をたどるのかイメージでき、安心して入院医療を受けられるよう、

入院時支援担当者を外来に配置することができました。今後、外来部門と入院部門の一層の連携が可能となります。平成16年から体制を整備し取り組んできた在宅移行支援ですが、医療度の高い方の在宅復帰支援では、ご自宅その人（ご家族）らしく暮らす準備として、看護師は専門的なケアを在宅医療チームへつなぎます。ご家族が連日泊まり込み、熱心に専門的なケアを習得されていた姿は、病院としても頼もしく、在宅医療チームの柱となったご家族と地域・病院の多職種、事業所等の方々と一緒に地域包括ケアシステムとなつて、役割を果たし応えるやりがいと喜びを感じさせていただいています。住民の医療と暮らし地域での療養生活を安全に支える視点と行動が、病院職員全てに求められ、一端を担えたと感じています。今年も、これまで以上に地域・病院・診療所・職種の垣根を越えた連携と協働体制を確立して、地域支援・在宅支援・在宅移行支援と地域への貢献を介して信頼され、地域の期待に応えるために、専門性を鍛え、総合的な技術の向上に努力して、平時も災害時も住み慣れた地域での暮らしを支える専門職を目指します。

本年が、皆様方にとりまして明るい希望のある未来への実り多い1年となります。ご祈念申し上げますとともに、本年もよろしくご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



健康なあなたに 10年後20年後も健康でいてもらいたいから 受けてください 特定健診

特定健診の目的は、生活習慣病を予防することです。脂質異常症、高血圧症、糖尿病などいわゆる生活習慣病は、日本人の死亡原因の約6割を占めています。

これらの疾患は、偏った食事、運動不足、ストレス、喫煙など体に負担をかける生活が続くことで引き起こされますので、体が負担に対応しきれなくなる前に、特定健診を受けて生活習慣を少し振り返ってもらいたいと思います。

健診内容は、必須項目に加え、今年度からは、一定の基準のもと医師が必要と判断した場合には、心電図や眼底写真、貧血検査、腎機能検査も追加実施されるようになりました。

当院では、佐川町国保の40～75歳の方を対象とした特定健診を12月1日(日)に実施し、50名を超える参加がありました。今年度の佐川町国保の受診目標44%に対して34.3%と目標達成にはまだまだです。



日曜日に実施する特定健診は3月にも予定しており、平日は火曜日と木曜日の午前中に実施しています。また、当院で定期的にかかっている方は、診察時に一緒に受けられますので主治医にご相談ください。

対象の皆さん、ぜひ受診をお願いします。

X線CT診断装置について

放射線技術科 橋本大輔

はしもと だいすけ

新年、明けましておめでとうございます。皆様におかれましては輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

放射線技術科におきまして、昨年9月26日にX線CT診断装置の入れ替えを行いました。

今まで使用していたX線CT診断装置は平成18年に購入したもので、故障頻度も多くなり、故障部位によっては部品供給も困難になっていました。また、X線管球の熱容量も小さかったので、広範囲の撮影や連続での撮影ができませんでした。

新しく購入したX線CT診断装置は、体軸方向に検出器が64個並んだ装置になり、

今まで使用していた装置は4列だったので、検出器が大幅に増加しています。そのため、撮影した画像がより細かく撮影できるようになりました。加えて撮影時間も短くなり、今まで胸部撮影が25秒ほどかかっていましたが、3秒程度の息止めで撮影できるようになっています。また、検出器がデジタルになったことや、新しい画像再構成によって患者さんの被ばくを少なくできるようになっています。

全国的に高齢化社会になってきており、高北病院でも患者さんの中には長時間の息止めや仰臥位(仰向けに横になること)の保持が困難な方もおられます。新しい装置になり、患者さんの負担が少なく、診断可能な写真を撮れるようになりました。これからも高北病院放射線技術科をよろしくお願いいたします。

赴任のあいさつ

高北病院内科医

はしもと ひであつ
橋本 英篤

今年の1月か

ら高北病院
内科に赴任
しました。

神奈川県横

浜市出身で、高校

は東京・品川にある高輪学園
に通いました。

大学は聖マリアンナ医科大学
を卒業し、初期臨床研修医も
母校で2年間行いました。昨年
の4月から聖マリアンナ医科大
学病院消化器内科に入局し、
現在後期研修医1年目として
内科ローテート中です。

高知県での地域研修は全3
カ月あります。聖マリアンナ医
科大学病院からの研修先とし
て長くお世話になっている県で
すが、私は高知県に来るのが初
めてです。高知県について先に
調べてみたところ人口減少の最
先端を行く県であることを知
り衝撃を受けました。その人
口は70万人であります。対し
て、神奈川県は全人口は918
万、内私の育った横浜市は日
本有数の大都市で374万人、
大学病院のある川崎市は15
1万人います。高知県は、人口
減少と同時に日本有数の高齢

化が進んでいる県、日本の近い
未来の縮図であることを知り
ました。

それに際して進められている
高知県の医療的な取り組みの
中で、中山間地域の支え合いの
ネットワーク作りは急性期医
療の延長であり福祉政策とし
て大都市では見ることができな
い課題に取り組んでいます。そ
んな高知県で臨床を学ぶ機会
に恵まれ、これから高齢化社会
を支える一ジエナリストとし
てとても重要な意義を感じてい
ます。

高知県の医療を、急性期か
ら慢性期まで体験し、長期的
な視野で患者さんの生活を熟
慮した研修にしたいと志してい
ます。神奈川の大学病院では、
大学病院らしい稀な疾患から
一般的な腸炎まで幅広く診療
にあたってきましたが、神奈川
の常識がどれだけ高知県で覆
されるのか、生活や文化の違い
を通して幅広い目線で診療に
取り組むのが今から楽しみです。

内科医の経験はまだ1年足
らず、至らない点ばかりですが、
日々勉強し、佐川町の地域の
皆様の生活の一助となれるよ
う努力します。

若輩の身ではありますが、皆
様どうぞ宜しくお願い申し上
げます。

退任のあいさつ

前・高北病院内科医長

いのうえ ようこ
井上 陽子

あつという間に3カ月が過ぎ、
12月末をもって高北病院での
勤務を終えました。

1月からは神奈川県川崎
市立多摩病院へ戻っております。

この3カ月間は非常に濃厚な
時間を過ごすことができました。
平日は、患者さん及びご家族
様からたくさんのご意見を学ば
せていただきました。

病気についてだけでなく生活
背景、死生観など多岐にわた
る分野でお話しできたことは
大変貴重だと思っております。
無事に治療完遂された方も、
残念ながら亡くなられた方も
いましたが、どの方からも学ぶ
ことは大変多かったです。

週末は高知県内の色々な場
所へ行き楽しく過ごしました。

中でも一番印象に残ったのは
足摺岬の夜空で、満点の星空
の中、天の川や流れ星も見るこ
とができとても感動しました。

また、週末の観光でも色々な
方とお話しする機会がありま
した。

皆さんとても親切で、話しか
ければ色々なことを教えてくだ
さります。

「高知家」のスローガンをいた
るところで目にしましたが、本
当に家族のように温かい方達
だなと感じました。

11月半ばには念願の家庭医
道場(高知大学医学部家庭医
療学講座主催)へ参加すること
もできました。

道場では高知大の学生達と
過ごしましたが、真面目で素直
な学生達に感心しっぱなしでし
た。

今後また彼らと会える日が
来ることを願っています。

最後になりましたが高北病
院職員の皆さま大変お世話に
なりありがとうございました。

これから当大学から引き
続き医師が派遣されますが、
変わらぬご指導を宜しくお願い
致します。

